

阿波踊りの歴史的変遷と指導法

Historical transition and coaching of Awa dance

1K05A099

指導教員

主査 倉石平先生

佐々木 海

副査 寒川恒夫先生

(緒言)

徳島で生まれた郷土芸能である阿波踊りは400年以上も前に生まれたと言われている。徳島の歴史、及び風土が生み出した伝統的な芸能文化である阿波踊りは常に同じ形態で踊られてきたわけではなく、紆余曲折な変遷を遂げている。踊りの形態だけ取ってみても、「組踊り」、「にわか(俄)」、「ぞめき(騒めき)」と多様である。民衆の感情やその時代に求められた踊りの形によって変化がもたらされた。時には藩の規制や戦争による中止、存亡の危機に陥ったこともある。

(研究目的)

阿波踊りの観光資源化、連の差別化、エンターテインメント化、ショー化が進む阿波踊りが今後どう影響を受けて発展していくのかを明らかにする。最初に阿波踊りの歴史的変遷から現在の阿波踊りの姿を明確に捉える。そして現在の「魅せる踊り」が今後の阿波踊りにとって。それを明らかにすることが本研究の目的である。

(研究方法)

本研究は3つの手順より進めて行く。

1. 文献での阿波踊りの歴史的変遷の検討 阿波踊りがどのような時代の流れを経て、現在の形式・形態になったのかを検討し、把握する。徳島県の図書館や阿波踊り会館を訪問し、文献を調査していく。
2. 阿波踊りの現況 現在の阿波踊りの運営や広がり、メディアへの登場などから多角的に捉える。パンフレットや文献の調査、現役の連員に

意見を聞く。

3. 連所属者へのインタビュー調査 現在の阿波踊りへの体制や今後の阿波踊りの展開を調べるために連に所属する人たちへインタビュー調査を実施する。

以上3つの手順を踏まえて調査を行う。

(考察)

歴史的背景から考察すると、阿波踊りが発展したのは阿波踊りが3つの起源から発生したことによるだろう。3つの異なる形態が城下で混ざり合い、淘汰され、民衆に一番受け入れられた「ぞめき」が残ったのである。仮に阿波踊りが一つの源流から別れていったのであれば阿波踊りはここまで発展していないだろう。

協会・団体の観点から考えてみる。協会が作られたことで有名連という言葉が生まれ、「有名連は上手でなければ」という意識が有名連に所属する者、有名連を見る者共に持つようになった。

本研究の魅せる踊りが今後どうなるかという問題だが、文献の検討、インタビュー結果を元に考えてみると良い方向へ発展していくとは考え難い。魅せる踊りに特化して、踊り子自身が楽しめない踊りになっていくとするならば今後の阿波踊りの発展は見込めない。なぜならば、阿波踊りの本質は楽しむことだからである。阿波踊りは楽しむ踊りなのである。その本質を忘れ、奇麗な踊りのため、観客のため、協会のためとなれば阿波踊りの本質が崩れていくことになる。昔と変わってきたことは技術や環境だけではなく、人と人とのコミュニケーションが減少してきているのである。そういった目

に見えない阿波踊りの変化を考えてみても、阿波踊りが良い方向へ発展するようには考えられない。

(結論)

昔と変わってきたことは技術や環境だけではなく、人と人とのコミュニケーションが減少してきているのである。そういった目に見えない阿波踊りの変化を考えてみても、阿波踊りが良い方向へ発展するようには思わない。今後、阿波踊りを衰退させないためには踊る側、見る側ではなく、支える

側の協力が必要である。このまま不満を抱かせたまま阿波踊りの運営続けていけば、踊る側、見る側、支える側に亀裂が生じることになるだろう。解決策を見つけることは容易ではないが、阿波踊りの維持、伝承を続けるためには三者の妥協点を模索することが必要不可欠である。魅せる踊り、つまりエンターテインメント化が進む限り歪みが生じることになる。観光客ありきの運営を見直し、三者共が原点に立ち戻ることが阿波踊りをさらに発展をさせる鍵となるだろう。